令　和　７　年　４　月　制　定
北 海 道 体 操 連 盟 審 判 部
北海道高等学校体育連盟体操専門部

2025年版北海道高体連体操競技男子二部適用規則

第１章　演技の採点

第１条　原則

１．次に示すもの以外は、（公財）日本体操協会制定2025年版U-15適用規則を適用とする。

第２条　決定点

１．決定点の構成

（１）決定点は、次のような配点により構成される。

Ｄスコア　（６技＋終末技＋技のグループ＋加点）
＋　Ｅスコア　（10.00　－　減点）
―　Ｎ　　Ｄ　（ライン減点、タイム減点、技数不足等）
決 定 点

２．ゆか、あん馬、つり輪、平行棒、鉄棒の演技構成、および技のグループと特別要求

（１）　ゆか、あん馬、つり輪、平行棒、鉄棒の演技は次の技数を要求する。

ａ）Ｄスコア　７技（６技＋終末技）

ｉ）技は難度により、次の得点（難度点）が与えられる。

Ａ：0.10　Ｂ：0.20　Ｃ：0.30　Ｄ難度：0.40　Ｅ難度以上：0.50

（２）　技のグループ、および特別要求（種目特有の要求）

ａ）跳馬を除く５種目において次の技のグループを要求する。

ｉ）終末技を含む４つの技のグループ（１グループにつきＡ難度以上で0.50）

ｂ）技のグループは次の通りとする。

ゆ　か）　Ⅰ　跳躍技以外の技
Ⅱ　前方系の跳躍技
Ⅲ　後方系の跳躍技
Ⅳ　１回以上のひねりを伴う前方または後方の１回宙返り技

あん馬）　Ⅰ　片足振動・交差技
Ⅱ　旋回・旋回倒立・転向技
Ⅲ　旋回移動・転向移動技
Ⅳ　終末技

つり輪）　Ⅰ　振動・振動倒立技
Ⅱ　力技・静止技
Ⅲ　振動からの力静止技
Ⅳ　終末技

平行棒）　Ⅰ 腕支持振動技
Ⅱ 両棒での支持技
Ⅲ 長懸垂・逆懸垂振動技
Ⅳ 終末技

鉄棒）　Ⅰ 懸垂振動技
Ⅱ 手放し技
Ⅲ バーに近い・アドラー系の技
Ⅳ 終末技

ｃ）特別要求（種目特有の要求）

ｉ）跳馬を除く５種目について次の技を要求（種目特有の要求）として演技構成に入れること。要求を満たさない場合は各々0.30 のＮＤとする。なお、７技に入れる必要はなく、大過失で難度認定されなかった場合でも実施していれば認める。ただし倒立静止においては静止が認められなければならない。

ゆ　か　・倒立静止
・バランス技
・ロンダート～後方系の跳躍技（グループⅢの技）
あん馬　・二つの交差技（正交差連続でも可）
・横向き旋回または縦向き旋回（正面支持～正面支持）
つり輪　・倒立静止（肩倒立でも可）
・背面水平懸垂または正面水平懸垂または十字懸垂
平行棒　・倒立静止（肩倒立でも可）
鉄　棒　・け上がり

（３）難度認定の特例

ａ） ａ難度（スモール・エー）

ｉ）体操競技の健全な発展と評価、そして普及の観点から次の技を「ａ難度」とし 0.10 の難度点を与える。ただし、技のグループは満たせない。主なａ難度は第６条２の通り。

ⅱ） ａ難度を除き、難度表に掲載されない次の技を特例として難度認定する。
（技のグループと技数を満たす）

あん馬	Ⅱ	・（横向き・縦向き）旋回 ※ 次の技に続かなくてもよい	：Ａ難度
つり輪	Ⅰ	・屈腕での車輪倒立静止（前方・後方）	：Ｂ難度（実施減点で対応）
	Ⅳ	・前方かかえ込み宙返り下り	：Ａ難度
		・後方かかえ込み宙返り下り	：Ａ難度
平行棒	Ⅰ	・前振りひねり倒立 45°未満	：Ｂ難度（実施減点で対応）
	Ⅳ	・前方かかえ込み宙返り下り	：Ａ難度
		・後方かかえ込み宙返り下り	：Ａ難度
鉄棒	Ⅲ	・足裏支持回転倒立	：Ａ難度
	Ⅳ	・前方かかえ込み宙返り下り	：Ａ難度
		・後方かかえ込み宙返り下り	：Ａ難度

（４）跳馬の競技方法とＤスコアについて

ａ）競技方法は、１跳越とする。

ｂ）跳馬の価値点は別紙「2025 年版 U-15 男子適用規則跳馬価値点一覧表」に定める。

ｃ）切り返し系の技（開脚とび、閉脚とびなど）の価値点は 1.0 とする。

ｄ）台上前転は前転とびと同じ価値点とする。ただし、姿勢的な欠点の他、器械にぶつかるなど大欠点以上の減点を伴う。

第３条　実施

１．実施減点

（１）正しい演技からの逸脱は、すべて実施欠点であり、審判員によって相応の減点がなされる。小、中、大欠点の大きさは、正しい実施からの逸脱の程度により判定される。小、中、大欠点等の減点は FIG ルールの減点に準ずる。ただし落下のみ 0.50 とする。

２．減点に関する特例

（１）鉄棒において、下記の振れ戻りは減点の対象としない。

・後ろ振り上がりからグループⅢに繋げた場合

（２）平行棒において後ろ振り倒立からの振り下ろしの減点は対象としない

３．加点

（１）組み合わせ加点（ゆか・鉄棒）

（２）着地加点（あん馬以外の A 難度以上の終末技及び跳馬の切り返し系以外の技）

第４条　ＮＤ

１．ニュートラル・ディダクション

（１）ゆかにおいて、２回宙返りを実施しなくてもＮＤの対象にはならない。

（２）ゆかにおいて、４つのコーナーに達しなくても２つの対角線上（２ライン）での実施が認められればＮＤの対象にはならない。２ラインの使用がなければ減点対象とする。

（３）つり輪において、振動倒立静止技を実施しなくてもＮＤの対象としない。

（４）短い演技（技数不足）に対するＮＤは、次の通りとする。

５技	2.00
４技	3.00
３技	4.00
２技	5.00
１技	6.00

第５条　禁止技

１．以下の禁止技を実施した場合は、その演技を０点とする。

（１）難度表に記載されている FIG ジュニアルールの禁止技

・つり輪のグチョギー系の技

・平行棒の宙返りから腕支持となる技

（２）跳馬における前転とび前方２回宙返り系やツカハラ後方宙返り系、 ユルチェンコ後方宙返り系の技

（３）ゆか・つり輪・平行棒・鉄棒における、前方・後方に２回宙返り（３回宙返り）をする技

第６条　その他

１．事故防止と選手の精神的援助のためつり輪、跳馬、平行棒、鉄棒において１名までの補助者が立つことが許される。

２．主なａ難度を以下に示す。示された技以外は大会の主旨、レベル等を考慮して審判員が各自で判断する。

ゆか）

・前転技群（前転、開脚前転、伸膝前転、倒立前転）　１技まで

・後転技群（後転、開脚後転、伸膝後転、後転倒立）　１技まで

・側方倒立回転

・ロンダート

あん馬）

・四つ足（左入れ～右入れ～左抜き～左抜き）：逆も可

・２つ目以降の横向き旋回（両把手、馬端、逆馬端でそれぞれ１つの技）

※　次の技に続かなくてもよい

・２つ目の正交差、２つ目の逆交差（左右それぞれ１つの技）

・(馬端中向き）上向き下り

・横向き旋回から両足を抜きながら90°転向下り（技の開始は正面支持からとする）

つり輪）

・肩倒立（90°以上肘を曲げた倒立。肘曲がりの減点0.50＋姿勢欠点等を伴う）

平行棒）

・肩倒立（90°以上肘を曲げた倒立。肘曲がりの減点0.50＋姿勢欠点等を伴う）

・開脚前挙支持

・腕支持後ろ振り上がり支持

・前振り後方かかえ込み宙返り下り（棒間）

・懸垂前振り後方かかえ込み宙返り下り（棒間）

鉄棒）

・け上がり支持

・懸垂前振りひねり（水平以下）

・懸垂前振り逆上がり

・後ろ振り上がり支持

・両手を同時に持ち換える技

・前方支持回転、後方支持回転

・後方足裏支持回転振り出し下り

３．各種目の競技前ワンタッチアップについて

（１）原則全種目30秒アップ

４．器械器具の寸度

公財）日本体操協会制定2025年版体操競技男子採点規則に準ずる。

※　つり輪、跳馬、鉄棒については、着地マット（エバーマット）の使用を認める。

※　跳馬の跳躍板は、ハードタイプ（３―３―２）・ソフト（３―１―２）を使用する。ソフトタイプ（３―１―２）はコイルを外し（２―１―２）として使用することを認める。使用後は必ず責任をもって元に戻すこと。